

# 令和 7 年（2025 年）の伊豆大島の火山活動

気 象 庁 地 震 火 山 部  
火山監視・警報センター

9 月 9 日から 10 日にかけて伊豆大島の西方沖を震源とする地震が増加しました。熱活動は低調に経過しており、火山性微動も発生しておらず、ただちに噴火が発生する兆候は認められません。地下深部へのマグマ供給によると考えられる 1986 年の噴火以降の長期的な島全体の膨張は、2018 年頃からほぼ停滞しています。これまでに供給されたマグマは地下深部に蓄積されていると考えられることから、今後火山活動が活発化する可能性があります。

## ○噴火警報・予報及び噴火警戒レベルの状況、2025 年の発表履歴

2025 年中変更なし	噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）
-------------	-----------------------------

## ○ 2025 年の活動概況

### ・噴気など表面現象の状況（図 1－①②、図 2－①、図 5、図 6、図 8）

北西外輪監視カメラによる観測では、剣ガ峰付近や三原山中央火孔、三原新山北側などごく弱い噴気が時々認められています。

現地調査では、三原山山頂周辺の噴気温度や三原山山頂火口内及びその周辺の噴気や地熱域の状況など、熱活動に特段の変化は認められませんでした。

### ・地震や微動の発生状況（図 1－③、図 2－②③、図 4）

9 月 9 日から 10 日にかけて伊豆大島の西方沖を震源とする地震が増加しました。その他の期間では火山性地震は少なく、地震活動は低調に経過しています。震源はカルデラ内の深さ 0～4 km 付近、西方沖、北部及び東部に分布しました。

火山性微動は観測されませんでした。

### ・地殻変動の状況（図 1－④、図 2－④⑤⑥、図 3、図 7、図 9）

GNSS 連続観測などによると、地下深部へのマグマの供給によると考えられる 1986 年の噴火以降の長期的な島全体の膨張傾向は、2018 年頃からほぼ停滞しています。約 1～3 年周期で膨張と収縮を繰り返す短期的な地殻変動は、2024 年 7 月頃からみられていた膨張の傾向が、2025 年 4 月頃から収縮に転じ、9 月頃からは概ね停滞しています。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページでも閲覧することができます。

[https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kazan/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東京大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ（標高）』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』『電子地形図（タイル）』を使用しています。

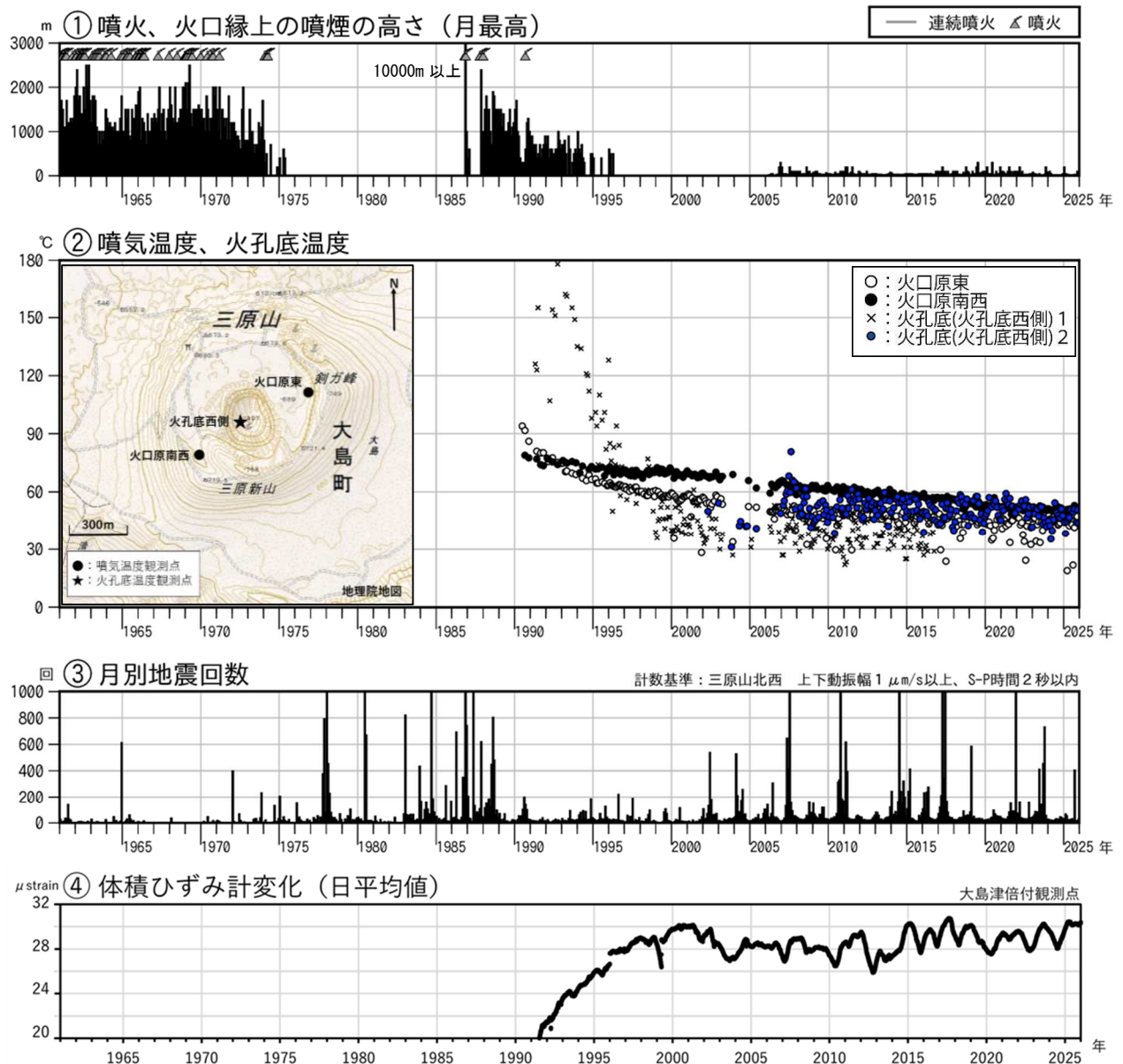


図 1 伊豆大島 長期間の火山活動経過図（1961 年 1 月～2025 年 12 月）

- ① 1991 年 12 月 18 日までは火口縁上 130m 以上、2002 年 2 月 28 日までは火口縁上 300m 以上の噴煙の高さを観測していました。2002 年 3 月 1 日以降は北西外輪監視カメラでの常時観測における噴煙の高さの月最大値を示しています。
- ② 火口原東、火口原南西：デジタル温度計により直接測定した噴気温度。  
火孔底（火孔底西側）1：赤外放射温度計により離れた場所から測定した火孔底温度。  
火孔底（火孔底西側）2：赤外熱映像装置により離れた場所から測定した火孔底温度。
- ③ 1965 年 5 月 24 日までは津倍付観測点（旧大島測候所）で、1965 年 5 月 25 日から 2002 年 2 月 28 日まで津倍付観測点から約 1 km 離れた観測点で、2002 年 3 月 1 日以降は三原山北西観測点で計数された地震回数を示しています。地震回数には伊豆大島周辺海域で発生した地震も一部含まれています。
- ④ グラフの空白部分は欠測を示します。センサ温度変化によるみかけの変化及びトレンド除去を行っています。

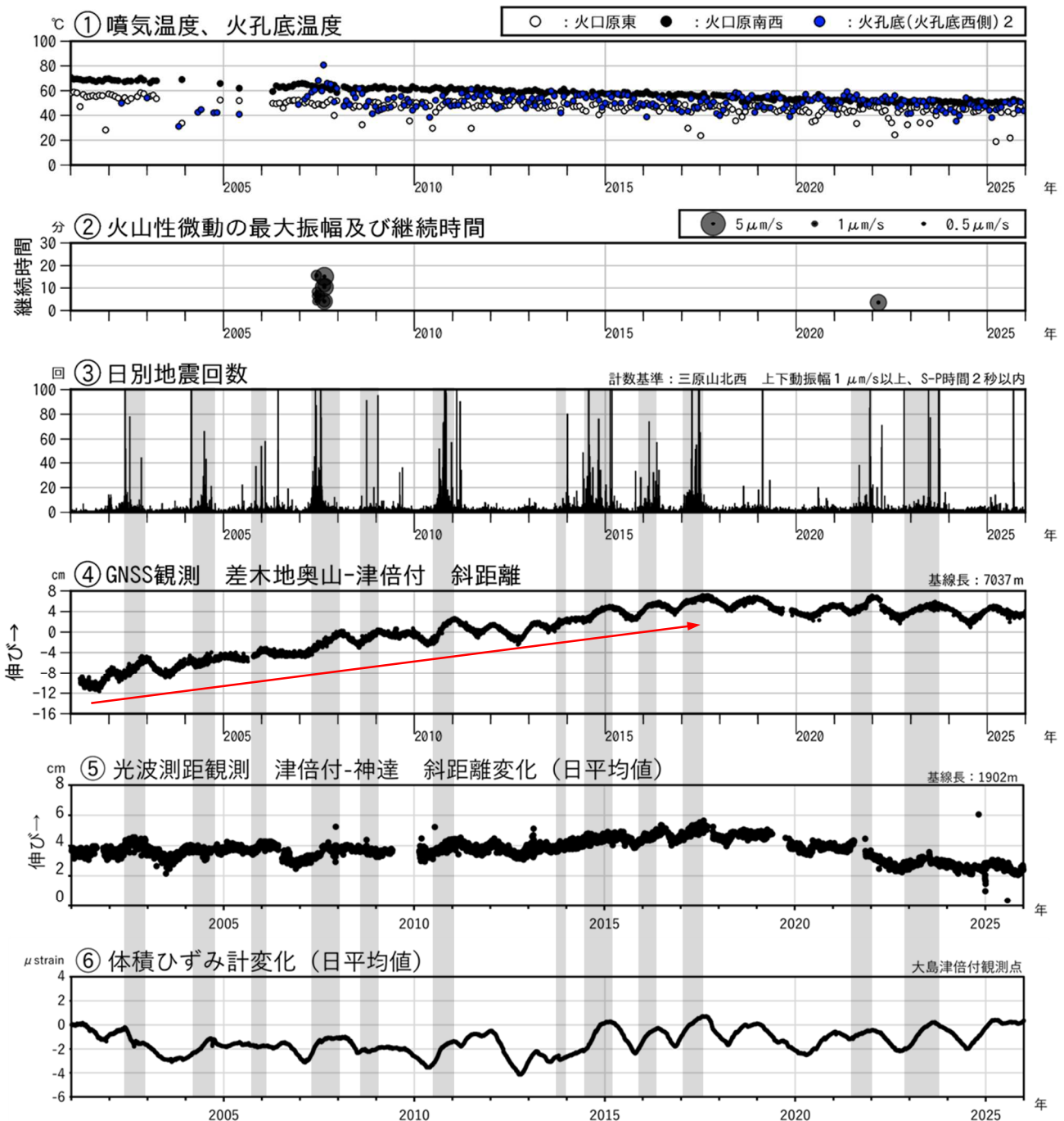


図 2 伊豆大島 最近の火山活動経過図 (2001 年 1 月～2025 年 12 月)

- ① 火口原東、火口原南西：デジタル温度計により直接測定した噴気温度。  
火口底(火口底西側) 2：赤外熱映像装置により離れた場所から測定した火口底温度。
- ② 三原山北西観測点(上下成分)で計測された火山性微動の最大振幅と継続時間を示しています。  
2007 年 6～8 月にかけて発生した火山性微動については、北山麓で発生したと考えられます。
- ④ 図 9 の GNSS 基線②に対応。グラフの空白部分は欠測。2009 年 12 月 25 日に差木地奥山観測点の支柱工事を実施しています。2010 年 10 月及び 2016 年 1 月に解析方法を変更しています。
- ⑤ グラフの空白部分は欠測。2010 年 2 月 17 日及び 2021 年 11 月 10 日に機器を更新しています。

- ・ 長期的な島全体の膨張傾向(④の赤矢印)に加え、約 1～3 年周期で膨張と収縮を繰り返す短期的な地殻変動もみられ、膨張がみられる時期に、これと関連すると考えられる地震活動の活発化がみられることがあります(③④⑤⑥の灰色部分)。
- ・ 体積ひずみ計変化には GNSS 観測と光波測距観測の斜距離変化に対応した周期的な変動がみられ、2025 年 7 月頃から停滞しています(④⑤⑥)。

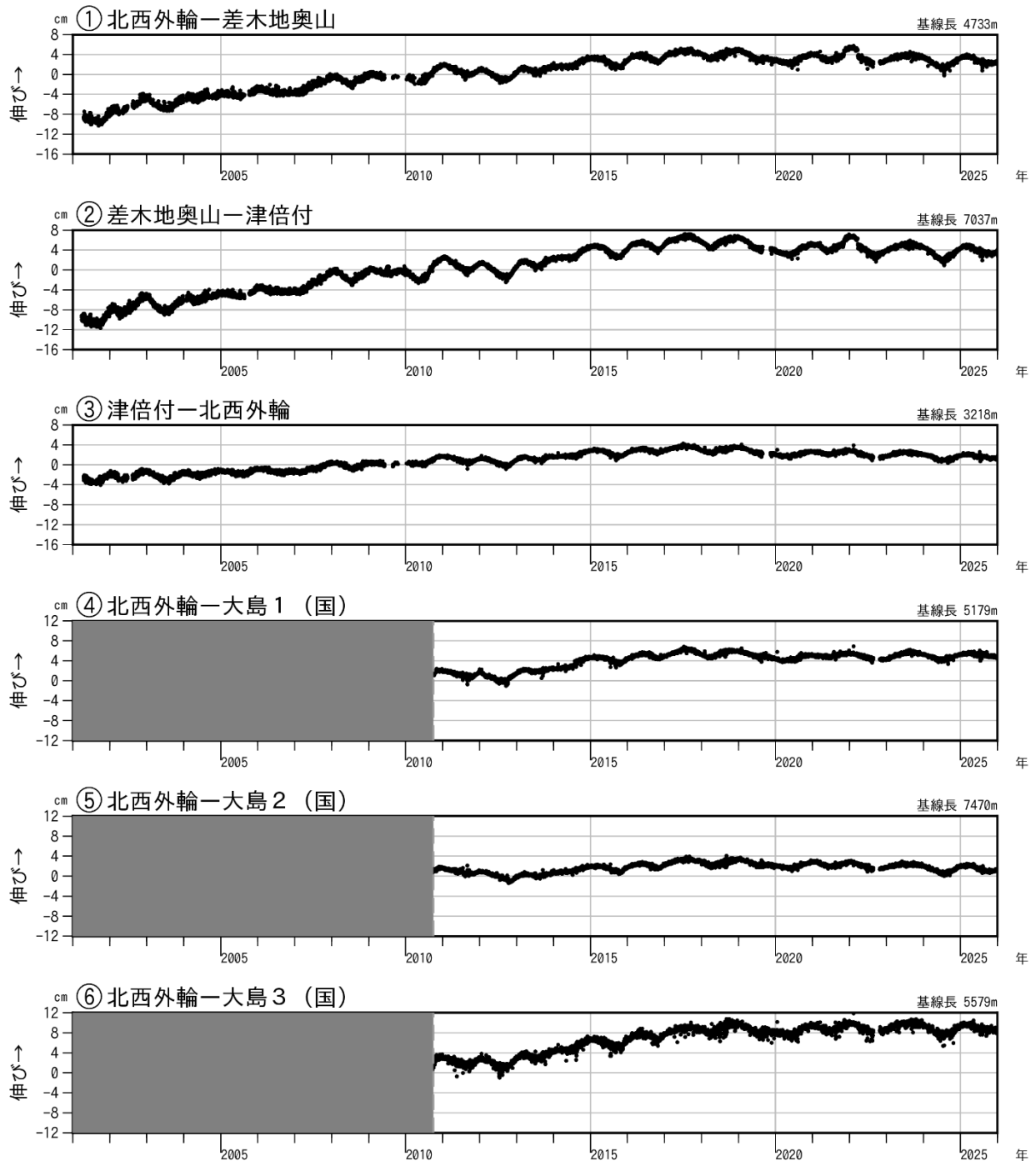


図 3-1 伊豆大島 GNSS 連続観測による基線長変化(2001 年 1 月～2025 年 12 月)

(国)：国土地理院、①～⑥は図 9 の GNSS 基線①～⑥に対応、グラフの空白部分は欠測。

2010 年 10 月及び 2016 年 1 月に解析方法を変更しています。

2009 年 12 月 25 日に差木地奥山観測点の支柱工事を実施しています。

- ・地下深部へのマグマの供給によると考えられる長期的な島全体の膨張傾向は、2018 年頃からはほぼ停滞しています。

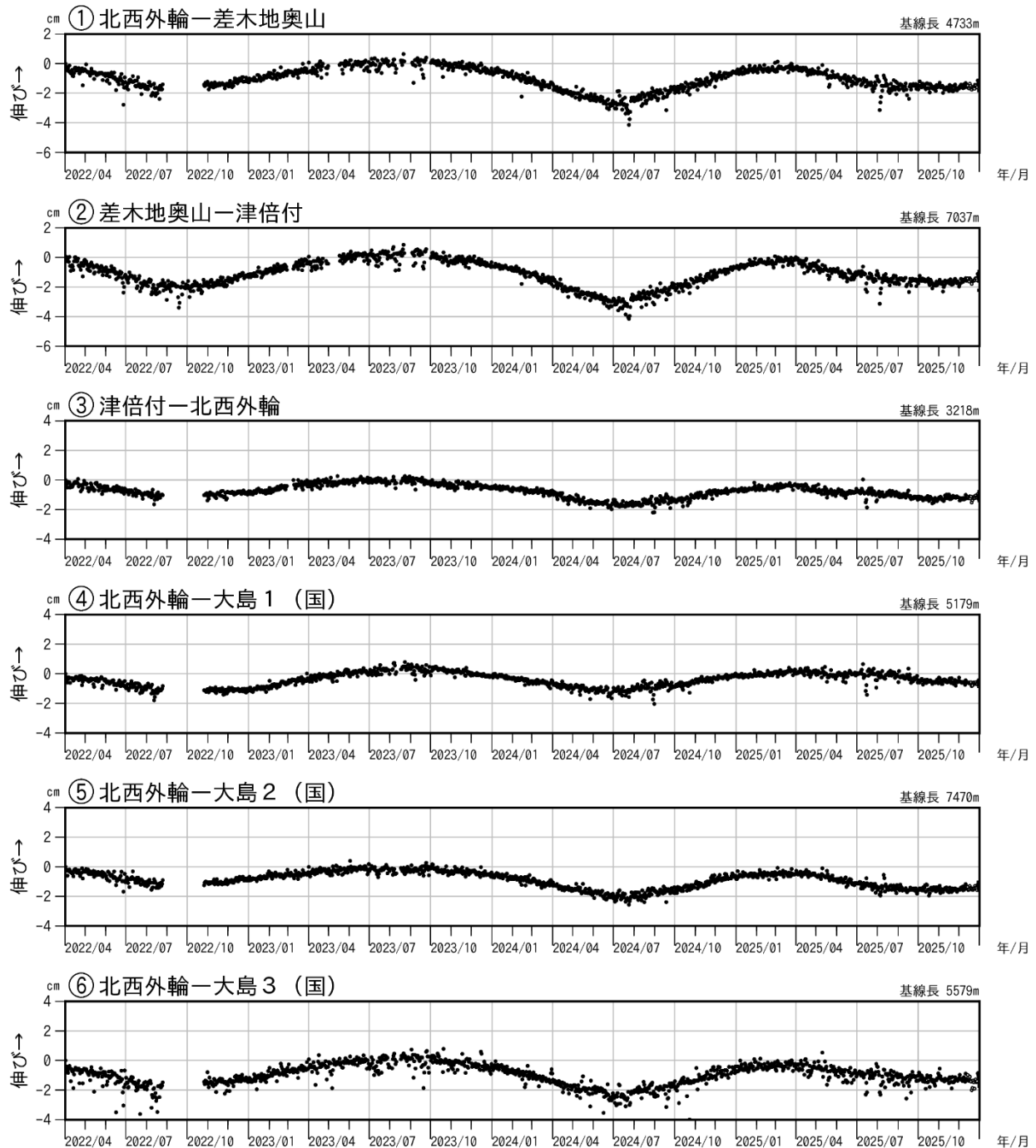


図 3-2 伊豆大島 GNSS 連続観測による基線長変化 (2022 年 4 月～2025 年 12 月)

(国) : 国土地理院、①～⑥は図 9 の GNSS 基線①～⑥に対応、グラフの空白部分は欠測。

- ・ 約 1～3 年周期で膨張と収縮を繰り返す地殻変動は、2024 年 7 月頃からみられていた膨張の傾向が、2025 年 4 月頃から収縮に転じ、9 月頃からは概ね停滞しています。

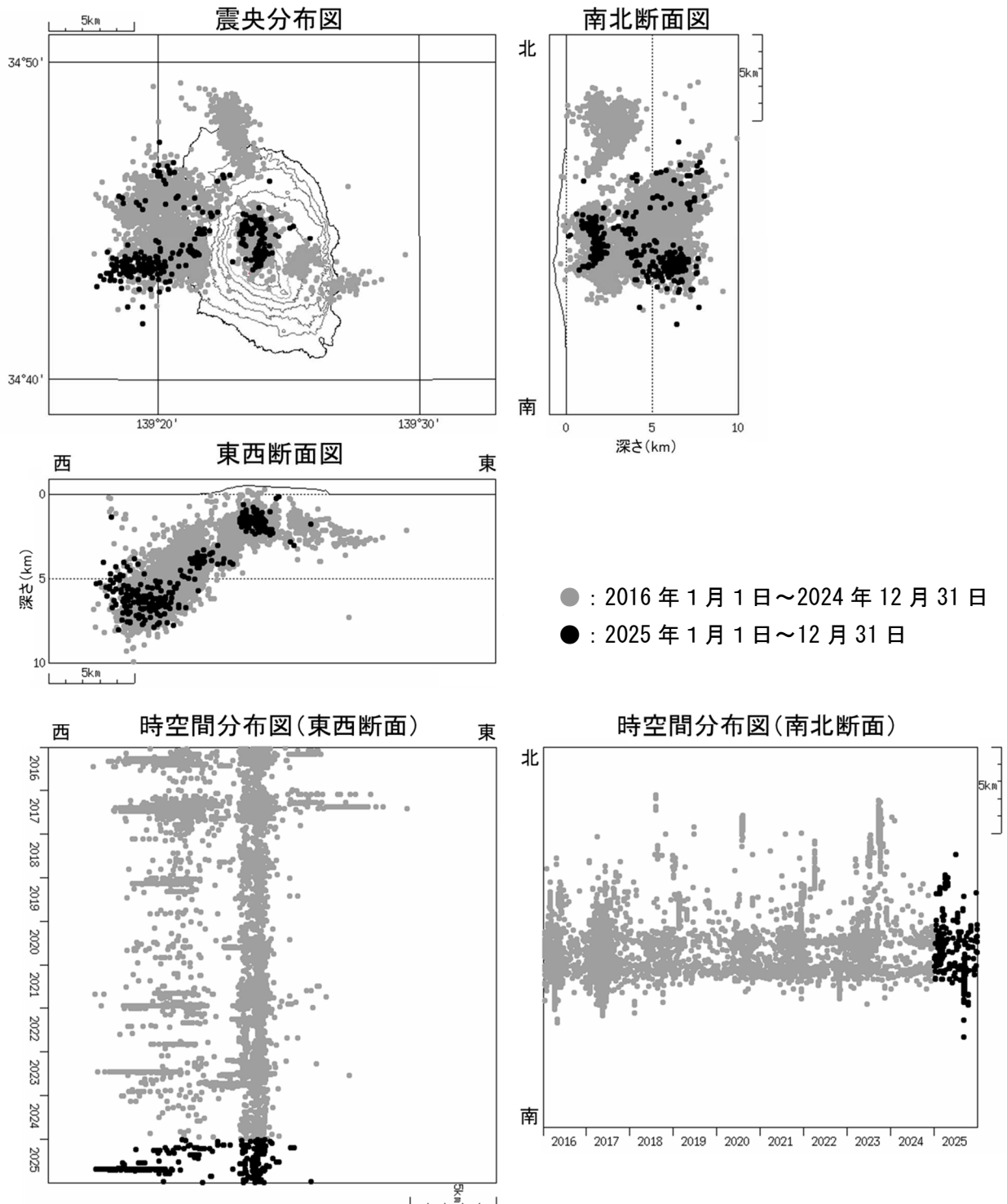


図4 伊豆大島 最近の火山性地震の震源分布 (2016 年 1 月 1 日～2025 年 12 月 31 日)

- ・長期的には、地震活動は活発な時期と静穏な時期を繰り返しています。
- ・震源はカルデラ内の深さ0～4 km 付近、西方沖、北部及び東部に分布しました。
- ・火山性地震の発生している領域にこれまでと比較して特段の変化はありませんでした。





山頂部（12 月 19 日、北西外輪監視カメラによる）



剣ガ峰付近（12 月 16 日撮影）

図 5 伊豆大島 三原山山頂部及び山頂火口の状況（撮影方向は図 8 参照）

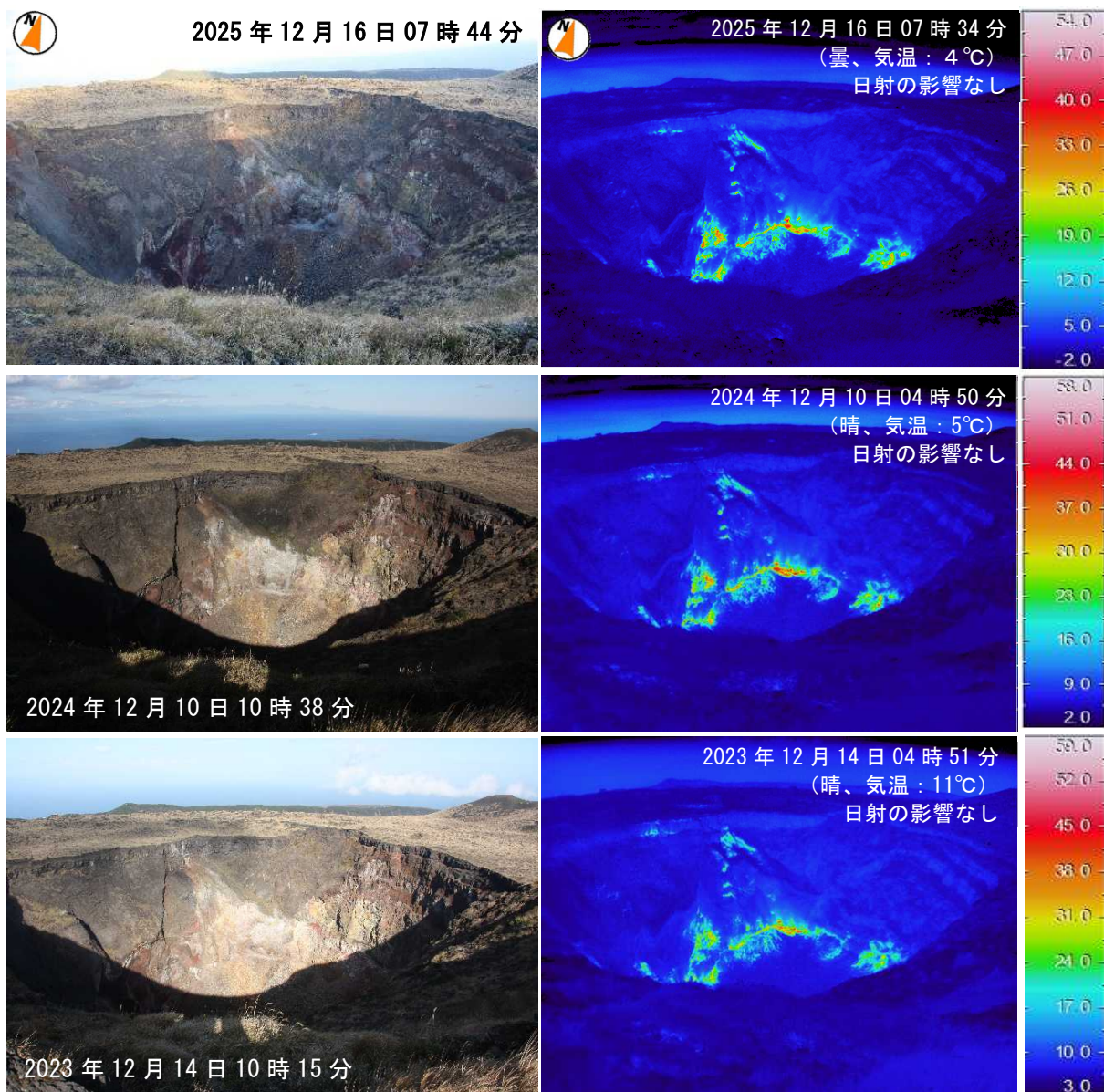


図 6-1 伊豆大島 中央火口内の状況（撮影方向は図 8 参照）

- ・ 中央火口内の噴気の状況や地熱域の広がり等いずれも特段の変化は認められません。



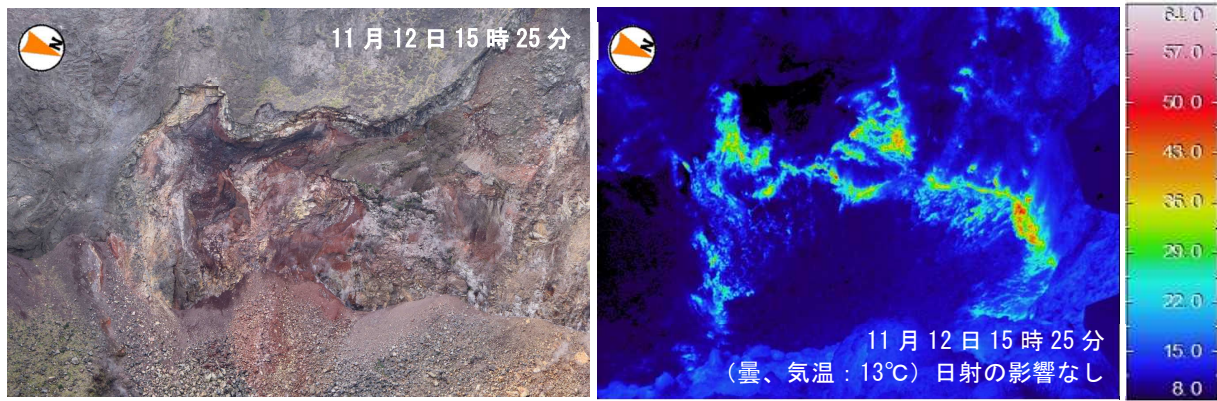


図6-2 伊豆大島 中央火孔内の状況（撮影方向は図8参照）

- ・中央火孔内の噴気の状況や地熱域の広がりには特段の変化は見られませんでした。

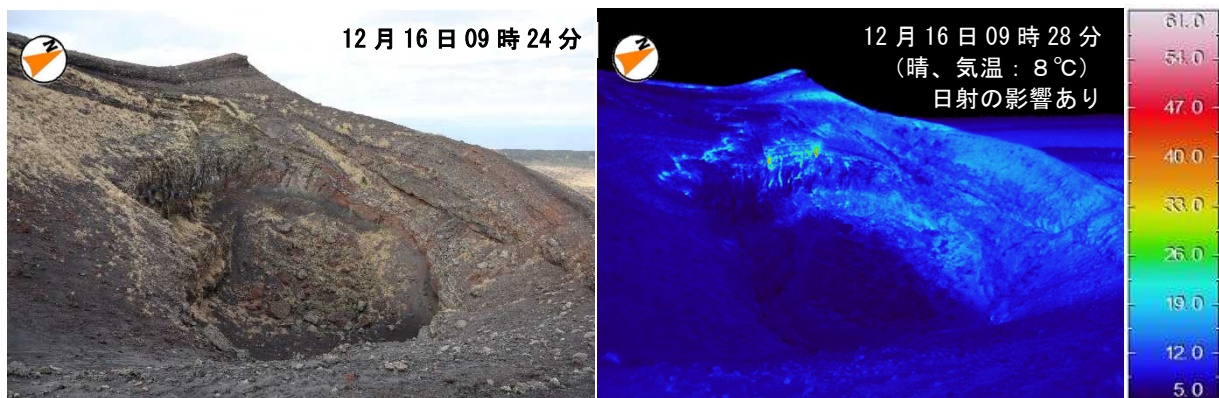


図6-3 伊豆大島 B2火孔周辺の状況（撮影方向は図8参照）

- ・B2火孔周辺では地熱・噴気活動が続いています。



図6-4 伊豆大島 B2火孔周辺の状況（撮影方向は図8参照）

- ・B2火孔周辺では地熱・噴気活動が続いています。



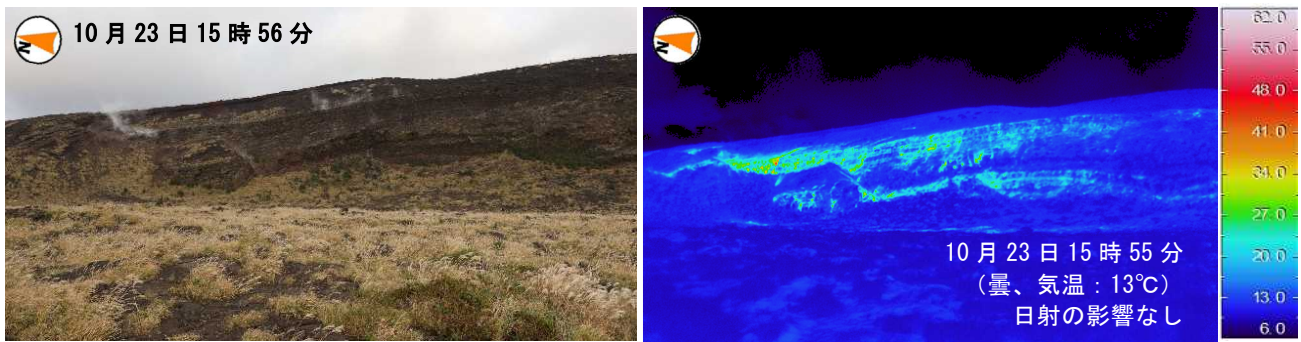


図6-5 伊豆大島 剣ガ峰の状況（撮影方向は図8参照）

- ・剣ガ峰では地熱・噴気活動が継続しています。

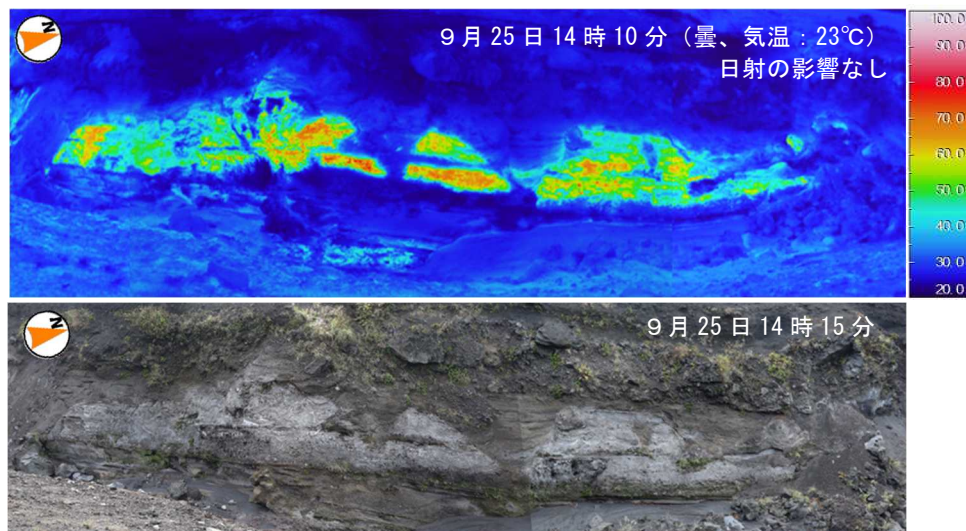


図6-6 伊豆大島 櫛形山西谷の状況（撮影方向は図8参照）

- ・櫛形山西谷では地熱・噴気活動が継続しています。

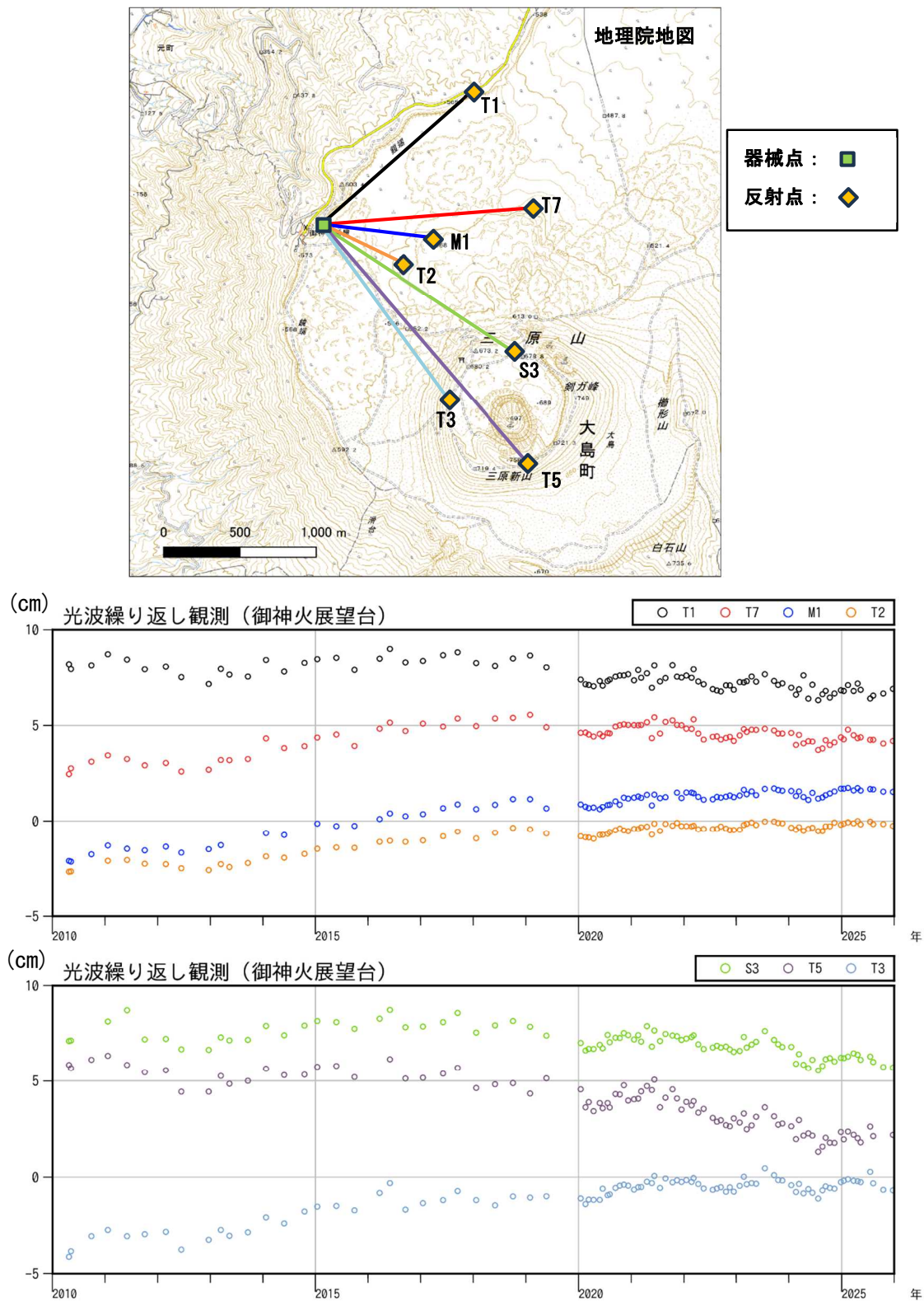


図 7 伊豆大島 光波測距繰返し観測による基線長変化

- ・ 約 1 ～ 3 年周期で膨張と収縮を繰り返す地殻変動が確認されています。
- ・ T3 では長期的な基線の伸び、T5 では長期的な基線の縮みが確認されていますが、三原山浅部の局所的な収縮を示す変化と考えられています。



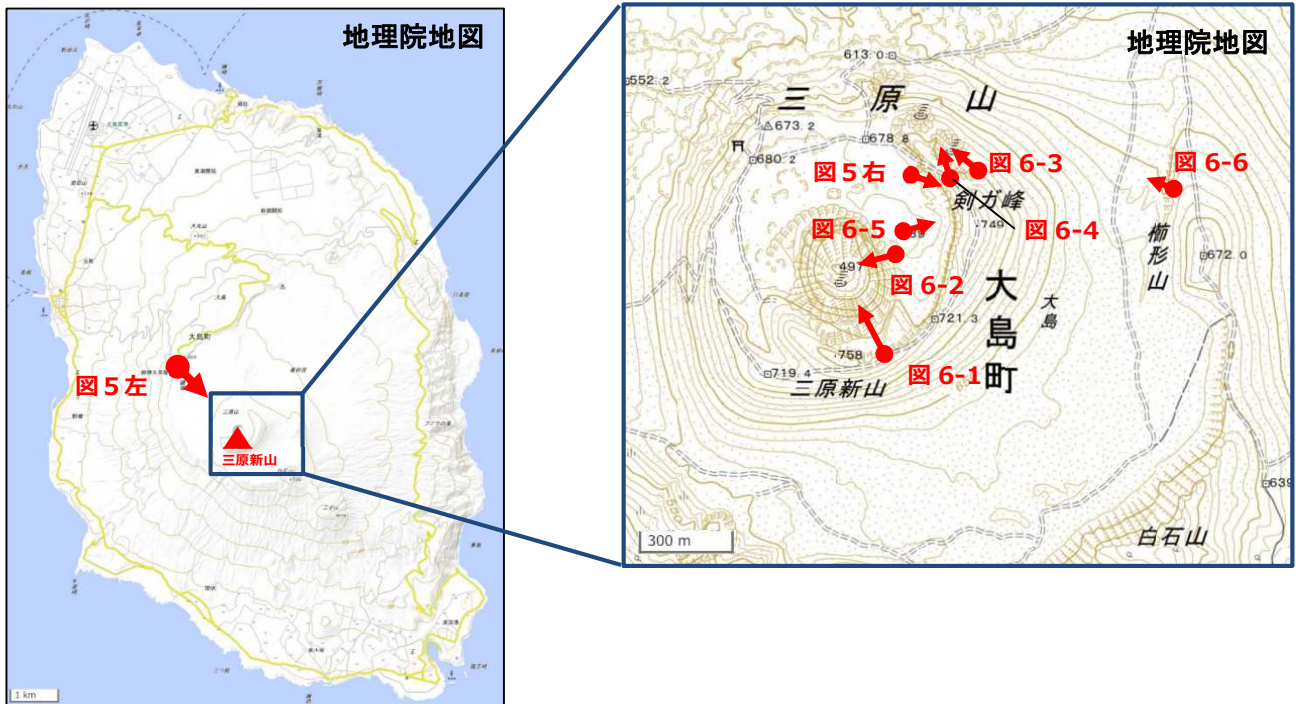


図8 伊豆大島 現地調査での撮影位置・撮影方向、及び火孔カメラの位置・撮影方向  
(赤丸：撮影位置、→：撮影方向)

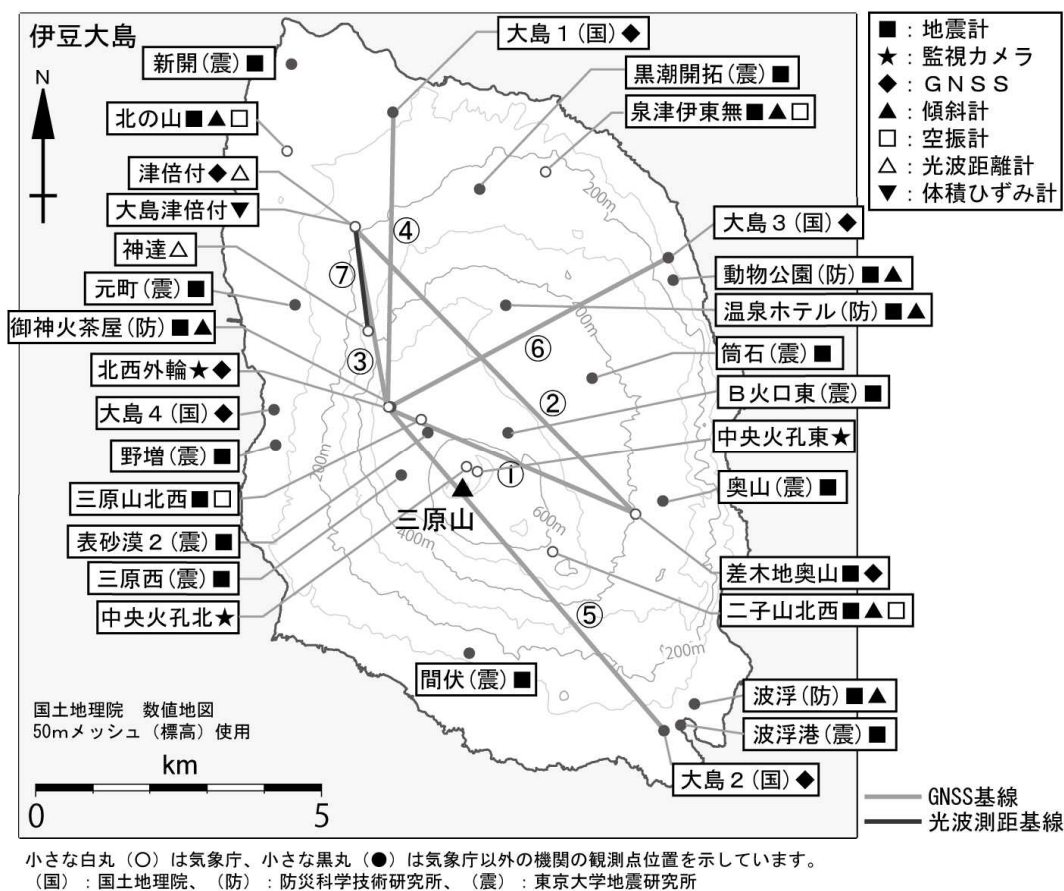


図9 伊豆大島 観測点配置図

図中の②は図2のGNSS基線④に、①～⑥は図3のGNSS基線①～⑥に、⑦は図2の光波測距基線⑤に対応。



表 1 伊豆大島 気象庁の観測点一覧

測器種類	地点名	位置			設置高 (m)	観測開始日	備考
		緯度	経度	標高(m)			
地震計	三原山北西	34°44.16′	139°23.21′	553	-1	1987. 2.20	
	差木地奥山	34°43.25′	139°25.68′	405	0	1997. 3.29	
	二子山北西	34°42.93′	139°24.73′	602	-92	2010. 8. 9	
	泉津伊東無	34°46.48′	139°24.64′	231	-61	2010. 8. 9	
	北の山	34°46.71′	139°21.66′	41	-92	2010. 8. 9	
傾斜計	二子山北西	34°42.93′	139°24.73′	602	-92	2011. 4. 1	
	泉津伊東無	34°46.48′	139°24.64′	231	-61	2011. 4. 1	
	北の山	34°46.71′	139°21.66′	41	-92	2011. 4. 1	
空振計	三原山北西	34°44.16′	139°23.21′	553	2	2001. 3.23	
	二子山北西	34°42.93′	139°24.73′	602	2	2010. 8. 9	
	泉津伊東無	34°46.48′	139°24.64′	231	2	2010. 8. 9	
	北の山	34°46.71′	139°21.66′	41	2	2010. 8. 9	
GNSS	北西外輪	34°44.28′	139°22.83′	560	4	2001. 3. 7	
	差木地奥山	34°43.25′	139°25.67′	403	9	2001. 3. 7	
	津倍付	34°45.98′	139°22.45′	190	2	2001. 3. 7	
光波距離計	津倍付	34°45.98′	139°22.45′	190		1987. 1. 1	器械点
	神達	34°45.00′	139°22.60′	370		1987. 1. 1	反射点
監視カメラ	北西外輪	34°44.28′	139°22.83′	556	3	1993. 3.19	
	中央火孔北	34°43.70′	139°23.70′	687		2010. 4. 1	
	中央火孔東	34°43.63′	139°23.80′	687	1	2016.12. 1	熱映像
体積ひずみ計	大島津倍付	34°45.98′	139°22.45′	187	-291	1990.10. 5	